

はじめに

小山田遺跡は、奈良県高市郡明日香村川原に所在します。昨年11月から、県立明日香養護学校教室棟改築事業にともなう調査を実施しています(第5次調査)。

発掘調査の結果、貼石、敷石および板石積みで構成される掘り割りを検出しました。このような掘り割りは、他に例をみない構造です。よって、その性格を明らかにするために、国庫補助事業による範囲確認調査も並行して実施しています(第6次調査)。

調査の成果

検出した掘り割りの長さは、約48mになります。東西方向に直線で延びており、古墳にともなうものとなる可能性が高いと考えられます。北面に貼石、底面に敷石が施され、南面の板石積みは、古墳の墳丘下段北辺にあたりと考えられます。

①掘り割り

●**貼石** 主に飛鳥付近の石英閃緑岩せんりよくを用いています。基底部には40cm大の石を使っていますが、上部にいくにつれて徐々に石材が小さくなる傾向があります。石の平坦な面を掘り割り側に揃え、約30度の傾斜で石を貼っています。調査区の東側では地面を削り出した斜面に石を貼っていますが、西側では地面を削り出した後に造成土を入れて、その上に石を貼っています。最も残りのよい所で11石分、高さ約1.0mになります。掘り割りの埋土からは、貼石側(北側)から掘り割りに向かって崩れ落ちた状態の石材を検出しました。このことから、貼石のものと高さは本来1.5m以上であったものと考えられます。

●**敷石** 主に石英閃緑岩を用いています。貼石の基底から板石積み(南側)の基底までの幅は約3.9m、このうち、板石積み側の幅約80cmの範囲は、30cm大の石を貼石側の石敷底よりも約10cm高く敷いてテラス状にしています。一段低い貼石側には、15~20cm大の石を約3.1mの幅で敷いています。石の敷き方は、調査区の中央では丁寧で、東西方向の目地も確認できる一方、東ではやや粗雑です。また石英閃緑岩のほか、遠隔地から運ばれた室生安山岩や結晶片岩(緑泥片岩)も一部で用いられています。貼石側の敷石上面の標高は約115.0mで、上面を水平に揃えています。

なお、テラス状の敷石および貼石側の敷石において、掘り割りの埋没が進行する以前に人為的に石が抜かれたと考えられる部分を、それぞれ1か所ずつ確認しました。

②墳丘下段北辺

●**板石積み** 方形に加工した板石を用いています。幅約50cm、厚さ約10cm、奥行約40cmの結晶片岩を基底として2段に積み、基底の1石目の上面とテラス状の敷石上面の高さを揃えています。基底石の上には幅30~40cm(最大で約66cm)、厚さ約5cm、奥行約30cmの室生安山岩を約10cmずつずらしながら、約25度の傾斜で段状に積んでいます。裏込めには黄色の粘土を用いており、板石を据え付ける高さの調整もこの粘土でおこなっています。板石積みは、検出長約9.0m、最も良好に残る部分で基底の2石を含め10段分、高さ約60cmを測ります。掘り割り底面では板石積み側から崩れ落ちた状態の板石を多量に検出しました。本来は、さらに高く段状に積み重ねられていたものと考えられます。

なお、板石積みの部分でも、板石が崩れ落ちる以前に基底の2石目にあたる石が抜かれた可能性のある部分を1か所確認しました。

③検出遺構の時期

調査では、遺構がつけられた時期を直接的に示す遺物は出土していません。しかし、貼石にともなう造成土からは6世紀後半代の土器類、掘り割り埋没時に北側から流入した堆積土の上層からは7世紀後半代の土器が出土しています。また、板石積みに用いられた室生安山岩や結晶片岩は、7世紀中頃の寺院や古墳に多用されています。これらのことから、今回検出した遺構も、7世紀中頃となる可能性が考えられます。

まとめ

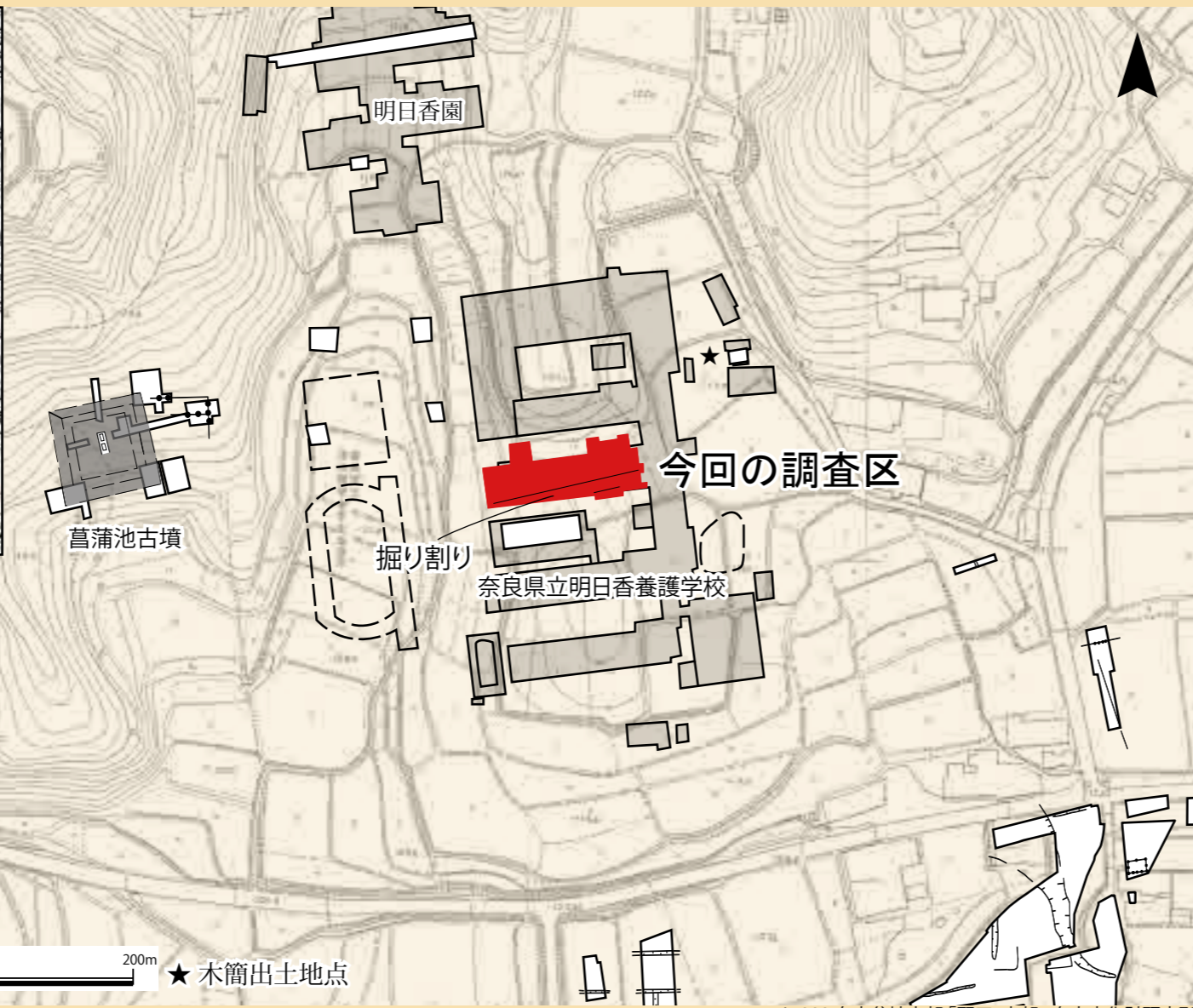
今回の調査で、飛鳥時代の大規模な遺構を新たに検出することができました。遺構は、周囲の旧地形と調査区的位置関係からみて南に延びる尾根の先端部を切断し、地面を削り出して基盤とし、貼石部分は一部造成してつくられたことがわかります。また、過去の地形図をみると、調査区の南側に残丘状の高まりや、段状の地形が認められます。これらのことから、今回検出した遺構は、古墳に伴う掘り割りとなる可能性が高く、南面の板石積みは墳丘下段北辺の裾部分を構成したのと考えられます。これまでの調査をふまえると、50m以上の方墳になると考えられます。今後、古墳の規模およびその構造の詳細を明らかにするために、継続した調査をおこなっていく必要性があります。





調査地

〔国土地理院発行2万5千分1地形図(畝傍山)を使用〕



葛蒲池古墳

掘り割り

今回の調査区

奈良県立明日香養護学校

宮ヶ原1・2号墳

★ 木簡出土地点

1/1,000 奈良盆地南部「野口」立部 奈良文化財研究所



掘り割りと墳丘裾部 (東から)



掘り割りの貼石と敷石 (南から)



板石積み (北東から)



調査区垂直写真 (上が北)

※四角の穴は以前の校舎基礎